



# 城東中学校だより

【カラー版を、ホームページに掲載しています】

NO.12

2026.2.25

はつこうしゃ じょうとうちゅうがっこうちょう  
発行者 城東中学校長

TEL 26-7022

## 卒業式について！

本年度の卒業式は、3月12日(木)に挙行政します。卒業生・在校生ともに全員が式場に入り、式に参加します。保護者の皆様につきましては、人数制限は行いません。

3年生のみなさん、残りの中学校生活、一日一日を大切に過ごしてください。なかまとの絆を深め、未来につながる残りの日々となることを願います。

## 3年生がデートDVについて学習しました！

1月22日(木)、フレンテみえの高木康衣さんから「デートDV」についてお話をうかがいました。教師のロールプレイなども取り入れながら、自分の意識をチェックし、力で相手を支配すること、また、自己決定権を親密な関係の人に奪われることがDVであることを学びました。お互いに尊重し合える関係を築くことの大切さを学びました。



## 2年生が人権学習をしました！「自分をみつめなおそう」

2月5日(木)に、(公財)反差別・人権研究所みえの本江優子さんを講師にお招きし、2年生が人権講演会を行いました。無関心や無知、自分には関係ないという意識が差別を残し、助長する要因であることをお話しいただき、普段何気なく使っている「ふつう」や「あたりまえ」が、それで良いのかを振り返ることができました。人権学習とは、「誰かのためではなく、自分のため」「無意識の偏見や思い込みにとらわれないため」「自分の気持ちを伝え、相手の気持ちが分かるようにするため」の学習であるというメッセージが生徒に届き、講演会後は多くの生徒が手を挙げ質問や感想、意見を伝えていました。講師の本江さんも感心してくれていました。また、振り返り学習の中で感想を綴り、今後、なかま集会で交流する予定です。



### <生徒の感想>

#### ※【講演内でのABCD】

A:無関心、無知、傍観 B:差別する人 C:差別される人 D:差別をなくすために行動する人

- 「この世には差別やいじめをされるため、差別やいじめをするために生まれてきた人はいない」という言葉が印象に残った。Aにいた人は、何かをきっかけにBに行くことがあるけど、Bにいかないようにするためには、その何かをみんなで解決していけばいいと思った。
- 自分にゆびをむけて、自分を見つめ直して、自分を変えていく。
- 差別はBの人が勝手な理由をつけてCの人をつくってしまうもの。Aの人でも何かのきっかけでBになってしまう。差別をなくすためにもD側を多数派にしていく必要があると感じた。
- どんなことでも、まずは学ぶことが大切だと思った。本江さんはD側にいた先輩に「何かあったでしょ」と聞いてもらい、今の仕事に就くきっかけをもらい、「私は生まれてきて良かったんだ」と思うことができたと言っていた。Dの人を増やすためにも、自分はその情報を飲み込まないように「知る」「学ぶ」を続けていきたい。そして、自分の「ふつう」で誰かを傷つけてしまっているかもしれないから、自分を振り返り、見つめ直したい。

## 1年生が人権学習をしました！



2月9日(月)に、1年生に向けて「自分らしく生きるために～伊賀で実現できた僕らの生活～」というテーマで、伊賀市パートナーシップ宣誓制度を利用し、伊賀市に移住された加納克典さんと嶋田全宏さんを講師にお招きし、人権講演会を行いました。性の多様なあり方や、自分の性的指

向について悩み、周囲に知られないように偽っていたときは生きづらかったこと、人との出会いを通して自分らしく生きていること、伊賀市に移住してからの生活、LGBTQ+に関わる社会の動きなどについて、生徒たちの事前アンケートの質問に回答していただきながら講演いただきました。お二人のお話から、性のあり方は多様で「みんなちがって当たり前」であるということ、自分たちが「当事者がいることを前提」とした社会をつくっていくこと、その社会をつくる一員としてLGBTQ+について「無関心であっても、無関係ではいけない」のであり、当事者だけではなく一人ひとりがその課題を自分事として捉え、「知る→考える→動く」ことが、みんなが自分らしく生きられる社会にしていけるということを学びました。

<生徒の感想>

- これまでは、自分と違う考え方や生き方に対して「変わってる」と思ってしまうこともあったけど、それは知らなかっただけだと気づきました。すべての人が自分らしく安心して生活するためには、相手を決めつけず、まず理解しようとするのが大切だと思いました。
- 人権という言葉は少し難しく、自分とは遠いものだと感じていましたが、学習を通して、人権は特別なことではなく、日常での言葉や行動に深く関係していると分かりました。相手をからかったり、決めつけたりする行動も、相手にとって大きな負担になるに知り、自分の言動を見直したいと思いました。

## 3年生が人権学習をしました！

2月19日(木)に、伊賀市役所の人権政策課課長の川口素生さんから、「差別をなくす当事者として」をテーマにお話を聴かせていただきました。川口さんは、市民が人権について学ぶ多くの機会をつくり啓発に取り組まれています。部落差別と向き合い学び続けている識字学級のおばあちゃんや、かかわってきた子どもたちとの出会いをきっかけに、これまでの自分を振り返り自身の心が変容してきたこと、また、差別のない誰もが幸せで生きやすい「まち」にしていきたいという強い思い、そのためにも、差別をなくすなかまをつないでいくことが自分の仕事であると話されました。そして、これからの生き方につながるたくさんメッセージを伝えてくれました。

【川口さんからのメッセージ】

差別をなくすための行動として、自分にできること、それは出会いによる人との関係の中で、自分自身を振り返ることです。「決めつけたり思い込んできているか」「人の気持ちを想像し、自分に矢印を向けているか」「人を大切にしているか」「違いを認めることができるか」「自分の良いところも振り返り、自分を大切にしているか」など、自分を振り返ってみてください。卒業まであと数週間、友だちとの関係を見つめ直してみましよう。10年後、20年後もつながってられる友だち、なかまになるために、この数週間で大切に過ごしてください。そして、卒業後も自分から出会いを求めていってください。人とつながるために大事なことは「聴くこと」「(相手を)知ること」「返すこと」だと思います。友だちの何を聴いて、何を知っているかで、つながりは強くなってきます。

人権について学ぶことは、人と人との関係をよりよくし、自分の人生を豊かにするものです。そして、「自分がどう生きるか」について考えることこそ、自分事として捉えることだと思います。人は変われます。そして、社会も一人一人が声をあげることで変えることができます。

卒業後も、決して「夢(どんな人になりたいか)」をあきらめないでください。